

我が職場の安全活動について (914)

合川署三里森林事務所 伊藤研治

1、はじめに

当事務所管内は、標高200～300mに位置する里山地帯で、人工林率が92%にも達しております。

私達は、これらの造林地が確実に成林することをねがい、毎日安全作業を心掛け作業にあたっておりますが、現在、当局管内の造林事業における災害の発生件数は前年同期を上回る状況であり、憂慮されます。

私達の仲間は、今年度は10名であります。これまで、そのほとんどは同じメンバーで、しかも同じ担当区域で作業にあたってきました。

このことから、お互いの気心も知れているという利点もある反面、作業のさまざまな場面で、マンネリ化傾向におち入りがちになる恐れがあります。作業班の仲間の安全に対する意識を、生き生きとした状態で、毎日持ち続けることは、安全作業確保のために特に重要であると考えます。緑十字の日等を有効に活用し、類似災害の防止にとりくんだ事項について発表します。

2、安全活動の進め方について

私達は災害のない職場を如何にして実現するかについて、毎年度、事業開始時の緑十字の日安全座談会の中で、署からの安全重点事項の指導を得ることのほか、とくに、年間の重点的とりくみ事項として、今年度は次の3点を取り上げ積極的に取りくんできました。

第1は、蜂刺され災害の防止であり 第2は、切創災害の防止であります。第3は、「すべったころんだ」の災害防止であります。

私たちは、仲間同志で話し合い決定した、今年度の安全目標を自分のものとするため、具体的には次の3点に力を入れとりくみいたしました。その第一は、安全座談会では、予定作業の安全確保を図るためには、具体的にどのように作業を進めるかについて、自発的にみんなで疑問点や意見を出し合うように努めました。第二は、毎日のミーティングにあたっては、局署の「今週の指導ポイント」等を活用しながら通り一遍でなく特に現場の状況を熟知するため、前の日の反省をし乍ら、作業の状況を各人が遠慮なく意見を出し合い、当日の作業の安全について話し合うよう努

めました。第三は、ヒヤリハットの事項など自分で得た体験は、自分だけのものにして、全体のものにしていくよう努めました。

私たちは、この取りくみを通じて、一番の収穫は、一人一人が現場で体験したヒヤリハット事項等について、率直に意見を出し合い、疑問点や問題点については、どうしたらよりよいものとする事が出来るか、真剣に話し合いすることが習慣化したことでもあります。そして、そのことをさらに安全作業に直結する用具の改良へとつなぐことが出来るようになりました。また、毎日の仕事の中で仲間同志の安全に対する気配りが、安全意識の高揚につながっているように思います。

それでは、私たちが具体的に取りくんだ事項について述べることにします。

3、具体的に取りくんだ事項

(1) 蜂刺され防止対策について

私たちの森林事務所は、平成2年3件、平成3年3件、平成4年3件と3年間で9件の蜂刺されがあり、合川署で一番という状況でありました。このようなことから、どうしたら蜂刺されをなくし、より多くの蜂の捕殺が出来るか、4月1日の緑十字の日に、森林官をまじえ全員で話し合いました。

当事務所の事業地は主として、東向きから南西向きが多いことから、概して日当たりのよい地形であります。話し合いの中では、蜂はどんなところに生息し、どんなところを通るのか、いろいろな話しが出ました。また、ある者は風の強い年は低いところに巣を組む、雨の多い年は高いところに巣を組む、またある者は、日当たりの良い風通しの悪いところに巣を組む、またある者は、日の当たらない小屋の中にも巣を組むということでありました。

共通していることは、いずれも風通しの悪いところが多いということでありました。私達は、こうした話し合いの後、今年度は、例年設置してきたHA当たり3～4本設置のほかに新たに蜂部、中腹部、沢部の6カ所に54本を設置することにしました。また、溶液についても、せっかく試験的にやるのであれば、今までの混合液のほかに2～3種類新たに試めしてみてもどうかということになりました。

混合液は次のようなものを作りました。

- | | | | | |
|-----|---------|----------|---------|------------------------|
| 1 酒 | 0.2リットル | グレープジュース | 0.2リットル | (普段使っている液) |
| 2 酒 | 0.2リットル | グレープジュース | 0.2リットル | 酢酸 0.1リットル (新しく作った液) |
| 3 酒 | 0.2リットル | グレープジュース | 0.2リットル | 酢酸 0.1リットル 黒砂糖 5g |
| | | | | (#) |

4月23日これを峰部、中腹、沢部毎に各3個、計6カ所に設置いたしました。そして10日に1回、1ヶ月に3回見回りして蜂の入り具合、液の補充、蜂の入り具合の悪い所は別の場所に移動して見るなど試しました。

作業に入る2～3日前に、さらに点検を兼ねた見回りをし、作業終了後各区域の捕殺器を回収し、それぞれ調査分類してみました。表1のとおりであります。

調査の結果、地形、天候にも左右されると思いますが、数字的には明らかに新しく作った液に多く入ることがわかりました、表のようにほぼ倍々になっております。

こうした結果をふまえ、朝のミーティングでは、森林官や、班長から作業指示、注意事項等が話され、全員で「あの場所のあそこには昨年巣を組んであった」とか「あの場所は生息しておりそうだから気をつけよう」といろいろ情報交換して作業地に入るようにしております。捕殺器の設置とあわせ、作業が進められる中でも互いの位置や状況を確認し合い、大きな声で注意し合い乍ら、作業する毎日の繰り返すと、保護具の完全着用それに今年は「冷夏の恵み」で蜂刺され0災にもっていかれたと思います。

私達は、このことに取りくんでみて得た成果として、今までは保護具さえ着用しておれば刺されることはないと話していた仲間も、情報の交換や、声かけ、捕殺器に蜂の入り具合が悪いところは、進んで別の場所に移動設置するようになりました。

このように全員で話し合い、声かけて注意し合うようになったこと、そしてまた次の行動へと結びつくようになったこと、このことがなにより大きな収穫であったと思います。捕殺器を設置してから作業に入るまでの間が長く、見回り、混合液の補充に結構時間を要します。また、黒砂糖を混ぜた液は、蜂は多く入りますが液が飴状になり蜂を取り出すことに苦労します。こうした問題点等の解決も含め、皆様方のご指導を頂きさらに調査を続けていきたいと考えております。

(2) 切創災害の防止について

7 砥石の改良 第2報

研磨の結果は直接作業に影響を与えるため、刃物は常に切れ味の良い状態を保持する必要があることから、慎重な取り扱いが必要であります。私たちは、平成2年度にこの鎌の研磨時の安全確保のため、砥石の改良について発表いたしました。その後、この砥石を使用した場合の経費について調査いたしました。その結果、改良砥石を使用すれば砥石の約90%まで使用することができ、1人当たり年間1個、多い場合でも2個目を若干使用する程度であることがわかりました。改良しない砥

石を使用した場合では約60%程度の使用となるため、1人年間2~3個使用することが判明しており、経費比較をすれば表2のようになります。

このことから、1人当たり年間における経費は、少ない場合でも1207円、多い場合では2414円、節減することが出来ました。用具の改良は、安全性のみならず、経費面でも、私たちの仕事に大きく役立っていることがわかりました。

イ 鎌研ぎ台について

鎌作業に必要な鎌の研磨について、研磨する鎌の安定を図り、安全に研磨する用具として、短尺の半円形の木片に切り込みを入れた鎌研ぎ台木を製作し、使用しております。

この利点としては

- ① 鎌が安定するため安全に研磨できる
- ② 現地で容易に調達できる
- ③ 誰でも手軽に使用できる

ことがあげられます。また、鎌を研ぐ場合は、過去の災害事例を教訓として、適切な間隔を保持し、場所にもよりますが、バケツを中心に円形状になることで安全確保に努めております。

(3) 「すべった、ころんだ」の災害の防止について

移動時や歩行時の災害の未然防止のため、足元確認の励行について、ミーティングの時には、作業現地や気象条件に応じた十分な話し合いをし、お互いに注意を喚起しております。

今年度は特に歩道の仮橋のすべり止めについて取り組みをしました。雨降り後など特に橋の上はすべりやすい状態となるため、場所によっては縄を巻く方法、あるいは、橋板に横に鋸目を入れる方法等、また、必要な個所には手すりを付けるなどして、安全確保に努めました。そして、小さなことでも危険につながると気づいたときは、あと回しにしないで、即実行の心構えで安全確保に努めております。

4、むすび

作業箇所や条件が毎日のように変化するという環境の中で、これまで述べてきたような取り組みを毎年重ね、私たちは20年間無災害を継続することが出来ました。振り返ってみますと、職場の仲間一人一人が、現場の作業を通して感じたことや、考えたことなどを十分に出し合い、作業用具の改良へと目を向けるようになりまし

たし、災害ゼロをめざし、全員で安全の目標を定め、それに向ってそれぞれ自主的な安全に対する取り組みの毎日であったと思います。そして、目標を定めそれに向かって努力を続けることが、安全活動の活性化やマンネリ化の排除に役立ち、無災害継続のための大きな力になると考えております。私たちは災害の未然防止のため、今後も、小さなことも軽視することなく、安全作業を意識した創意工夫を重ねながら、仲間が一体となって、積極的に取りくんでいくことを話し合っております。

今後のご指導をお願いし、私の発表を終わります。

表1

混合液の種類	設置場所別 蜂の種類 捕殺数	峰 部	中 腹 部	沢 部
		捕殺数	捕殺数	捕殺数
イ 酒 0.2 ㍓ グレープジュース 0.2 ㍓ 水 0.2 ㍓	キイロスズメバチ		2	
	オオガタスズメバチ			
	ク ロスズメバチ			
	コガタスズメバチ	3	10	4
	キイロ足長蜂	4		3
	ツチ蜂	6	2	5
	計	13	14	12
ロ 酒 0.2 ㍓ グレープジュース 0.2 ㍓ 酢酸 0.1 ㍓	キイロスズメバチ	1	1	14
	オオガタスズメバチ	6		2
	ク ロスズメバチ			
	コガタスズメバチ	8	10	8
	キイロ足長蜂	1		4
	ツチ蜂	5	9	11
	計	21	20	39
ハ 酒 0.2 ㍓ グレープジュース 0.2 ㍓ 酢酸 0.1 ㍓ 黒砂糖 5g	キイロスズメバチ	9	12	5
	オオガタスズメバチ	2		9
	ク ロスズメバチ		1	3
	コガタスズメバチ	12	6	15
	キイロ足長蜂			8
	ツチ蜂	19	14	13
	計	42	33	53

表2

品名	1個	2個	3個
特殊NN砥石(青)	1,100	2,200	3,300
セメダインハイパー5	107	214	321
計	1,207	2,414	3,621